

◆野村胡堂文学賞について

「野村胡堂文学賞」は、昭和を代表する国民的作家、野村胡堂を顕彰する目的で、「一般社団法人日本作家クラブ」が2012年（平成24年）の制定・創設し、2014年（平成26年）の第1回、第2回の授賞式を行なったクラブ会員手作りの全く新しい文学・文芸賞です。

胡堂は、幅広く、奥行きのある深い知識と知恵を持った戦前・戦後を通じての昭和二本を代表する教養人・知識人でもありました、新聞記者、大衆小説家としての顔はもちろん、「あらえびす」の筆名による格調高い珠玉の音楽評論でも知られます。

本賞が、そうした多様な顔を持つ大先達、胡堂のなした膨大な仕事と生涯のうち、特に江戸・下町を舞台に“岡っ引き”が活躍する国民文学、捕物小説の一大傑作である『銭形平次』などを著し、戦前戦後を通じて庶民、大衆を勇気づけた大衆文芸・文学の業績に光を当てることといたしました。

野村胡堂は、当クラブの前身「捕物作家クラブ」を創設。名称変更後の「日本作家クラブ」初代会長も務めました。捕物小説、時代小説、歴史小説をはじめ、大衆文芸の普及と質的向上にも尽力した功績は絶大です。

賞を制定し、主催する当クラブは、その志と組織を受け継ぎ、未来永劫に胡堂の遺徳と功績を語り継ぐと同時に、併せて、胡堂と歴代の捕物作家クラブ、日本作家クラブに属した文豪、先達、歴代会員の思いを継承、発展させながら、胡堂たちが愛し、築き上げた時代小説や歴史小説のさらなる発展の一助となることを願っています。

◇当文学賞は、対象を商業出版された作品に限定しました。

当初は、書き下ろし作品も対象にするはずでしたが、文芸クラブ、文学団体の主催した賞は、長続きしなかったり、広がりや欠ける例が少なくないことがわかったからです。体力を無視した運営は持続しません。わがクラブの「日本作家クラブ賞」もまた、「公募」を視野に入れたことが引き金になって、残念ながら比較的短期で急死に追い込まれた過去があります。そうした失敗、挫折を教訓に、継続性を最優先に考えました、書き下ろしや雑誌掲載、自費出版などの作品については、文化領域と共に別途検討していく所存です。

「選考対象」

商業出版された時代小説と歴史小説。

昨年、新設した文学賞特別賞が小説に限定しない。

「対象期間」

毎年度、前年4月1日から当該年の3月末日までに称号出版された作品。

ただし、実行年度より2年以内には出版され、当クラブ会員の炊煙を得た作品が選考対象から除外しない。

「選考方法」

専門家の協力を得て予備選考、会員による投票を経て上位3作品を選考。審査委員会で受賞作を決定した。

「選考委員長」

奥本大三郎 一般社団法人日本作家クラブ 評議員
フランス文学者
大阪芸術大学 教授
埼玉大学 名誉教授
NPO日本アンリ・ファーブル会 理事長
ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」館長

◆歴代受賞作と受賞者

第1回 2014年 1月

文学賞 小中陽太郎 『翔べよ源内』

第2回 2014年 10月

文学賞 塚本青史 『サテライト三国志』

文学賞特別賞 高橋英樹 『高橋英樹のおもしろ日本史』

第3回 2015年 10月

文学賞 鳴神響一 『私の愛したサムライの娘』